

提携米通信

2010年4月号・黒瀬農舎発

桜は早いが、大荒れの春。



今年は例年より早く桜の開花の便りが各地から届いています。

桜が早い年は「暖かくて天気が好い年」というのが普通でしたが、最近の天候は、これではなくて、荒れた春だが、急に気温が上昇する日が時々あり、その促進効果による「狂い咲き」のようです。

私たちの秋田も、桜の開花は4月20日頃と今年は10日ほど早いと予想されています。

また、この冬、ほとんど雪が降らず、除雪機が出動したのは、わずか2度。その上、その日の積雪は、土木業者に仕事をまわして援助するため程度の僅かな積雪量でした。

このように、雪は少なかったものの、日中の最高気温がマイナス5℃以下になる日が急に現れ、翌日は4月の陽気になるなど、2、3日置きに、暦が2ヶ月も早まったり、バックしたりが繰り返される異常な天候です。

上の写真は、3月始めの田圃です。田圃の畦道あぜみちの補修作業中です。

ご覧のように、残雪もありません。一昔前の雪国秋田では、こんな早い時期に田圃で作業が行えることは、ありませんでした。(でもその後また、寒く雪になりました。)

この畦道の補修作業は「畦塗り」とも呼ばれていますが、除草剤を使わない米作りをする場合、非常に大事な作業の一つです。

稲の中に生えてくる色々の雑草は、除草剤を使わない場合、生えた雑草を除草機や手で取るなど素早く手際よい作業がコツですが、それ以上前に、雑草が生える量を減らす対策が肝心です。この効果的な方法の一つが、水を深く張ることです。

こために畦を高くして、また、畦の水漏れを防ぐ「畦塗り」が大事なのです。

この作業機は一年に1日か2日使うだけですが、100万円程度も必要なため、近くの農家と4人共同で今年新調しました。価格は高いが、性能は抜群でした。

提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大潟村西1丁目4の7

黒瀬 正・喜多

TEL 0185-45-3086 FAX 0185-45-2887



☆お餅は無添加
です。一万未開
封でカビが出た
時は、賞味期限
は、賞味期限
内は代品か返金
します。ご連絡
お願いします。

棚ぼたの所得補償／民主党栄えて日本農業は破壊

今年から始まる「所得補償制度」は、困ったことに、大多数の農家が多額な不労所得が入るとして大歓迎。小沢さんの集票の目論見は、大成功のように見えます。

この悪政が及ぼす影響は小さくありません。主な点だけをご紹介します。

1、お米の生産過剰は深刻。この数年有機米などの一部を除き急速に値下がりしてきましたが、所得補償制度の導入によって、値下がりが更に加速される可能性が高い。

①所得補償の発足は、主食米の生産刺激となり米余りを加速。②また、ご飯など主食以外に使われる加工米などの他用途米が、多額の補助金によって生産拡大され、米の総生産量が増大する。③これら他用途米が横流れして、ますます主食米の供給過剰を呼ぶ。④暴落しても補償されるため農家は作り続ける。この4つにより更に値下る。という悪循環が続く。

2、昔と比べて、近年総体的にお米は美味しくなりました。この原因は、食管制度がなくなり自由化されたからです。食管と同じ機能の所得補償制度は、農薬化学肥料多投による収量増加－生産過剰－値下がり－品質低下－消費減少の悪循環を呼ぶ。

①食管時代のお米は政府が無条件で買い上げていました。②この為生産者は、味など品質を追求しても意味が無く、農薬化学肥料を多用して収量を上げることばかりに努力していました。だからまずいお米が多かったのです。③自由化が進むにつれ、まずいお米は売れ難くなって、品質向上の機運が高まってきました。④また、味だけでなく、農薬や化学肥料を減らすなど安心安全や、環境に配慮した栽培など経営に工夫や努力をする農家が増え、だんだん美味しくなってきたのです。⑤所得補償制度の発足で、農薬化学肥料を多用して手間を省いて収量を上げていた食管時代の「まずいお米の増産」という無責任な米作りへの逆戻りが起こり、低品質の増産化によって米価が更に下落します。⑥値下がっても差額が支給される所得補償制度下では、生産過剰・値崩れを回復させる市場原理は機能せず、無限に財政負担が拡大するだけ。⑥その上、環境や安全に配慮するなど栽培に努力した農家のお米も、ブランド確立された一部を除き一緒に値下がりの波に飲み込まれ、健全な経営姿勢を持ちこの制度に不参加の農家の経営にも悪影響を及ぼします。⑦その結果、品質向上などの経営努力を放棄して「所得補償」に頼るだけのモラルハザードが生産現場に拡大し、日本農業を破綻崩壊に導きます。

3、「所得補償 不労所得で パチンコ繁盛」・・・1農家手取り：1千万円超！（最高の場合）

①我が村の農家1戸当りの経営面積は平均17.5%（我が家は15%ですが）。村の一農家当たりの補助金手取り確定額は、転作作物の種類により異なるが、300から800万円という大盤振る舞い。②その上、秋に米価が下がれば1戸で100～400万円もの追加補償金（値下り度により変動）が農家口座に自動的に入金。③麻生内閣の定額給付金より2桁多い、この不健全な不労所得が、農民を墮落させて「秋にはパチンコ大繁盛。」と地域ではもっぱらの話題。

この不労所得の受給対象農家は、全国で170万戸。「有権者1農家3.5人とすれば600万票が民主党へ」（地方での600万票は、都市部との票の格差効果で、民主党にとっては1千万票余の価値。）**「民主党栄えて、国の財政と日本農業は共に破綻崩壊」**

一方の自民党は「所得補償制度を攻撃すると、地方で票が減る。」として、批判すら出来ない無能ブザマの日々。日本に健全な2大政党制が確立できるのはいつの日か。